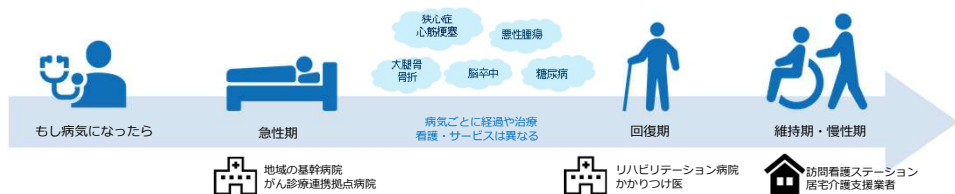


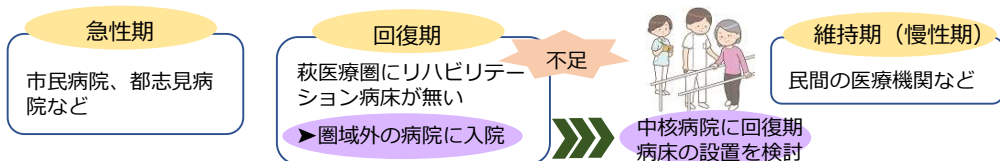
## ②医療提供体制の維持・充実

### ◎症状の経過時期に応じた医療体制を整備

疾病は、急性期～回復期～維持期（慢性期）に大きく分類されます。患者さんを中心に1つの病院だけでなく、地域の医療機関が連携し、これら疾病期間を通じて患者さんに切れ目ない最善の連携医療を提供する仕組みづくりを検討します。



#### ■不足している回復期病床を中核病院に



## 今、なぜ中核病院が必要なのか



### ◎地域に必要な医療の維持

中核病院では、これまで市民病院が担ってきた民間では難しい医療体制の維持や、重複する診療科目等の効率化など人口減少に伴う患者数の減少にも対応した持続可能な病院経営となるよう検討を進めます。

- ▶救急医療
- ▶周産期・小児医療
- ▶へき地医療
- ▶災害医療 など

維持



例えば・・・  
産科と小児科の集約による妊娠から出産までの一体的な医療体制も検討

さらに・・・

産科や小児科などの専門医の絶対数が少ない診療科目は、個々の病院独自の医師確保が困難

大学等に、地域の核となる病院に専門医派遣を依頼

地域に必要な診療科目を維持

### 中核病院形成検討委員会

▶中核病院形成検討委員会において、秋医療圏にふさわしい中核病院として担うべき医療や中核病院のあり方について検討していきます。

検討委員会では、次の内容の検討を行い、今後、検討結果を取りまとめる予定としています。

1. 中核病院の基本的な方向性
2. 経営形態
3. 診療科目・医療機能・病床規模
4. 2病院の機能分化、施設の活用方針
5. 経営シミュレーション



※検討委員会の検討状況については、広報はぎ、秋市ホームページで随時お知らせします。



中核病院の形成に関するご意見やご要望、お問い合わせを下記にて承ります。  
地域や団体の集まりなどで、中核病院づくりについて説明し、意見を伺う「中核病院なんでもトーク」を随時行っています。ご要望がありましたら、中核病院形成推進室までお知らせください。  
秋市中核病院形成推進室 メール tyuukaku@city.hagi.lg.jp 電話0838-21-3120

地域医療の崩壊が全国各地で社会問題化する中、ここ秋保健医療圏は、まさに、医師、看護師等の医療従事者の不足と高齢化が深刻な問題となっており、医療体制の危機的な状況が迫っています。

秋市では、将来にわたり、市民の皆さまが安心して医療を受けられる体制の構築に向け、地域の医療連携の核となる中核病院づくりに向けた検討を進めてまいります。

今、なぜ中核病院が必要なのか、秋医療圏の現状や地域の医療を守っていくための課題などについて、ポイントをまとめたパンフレットです。

# 1. 萩医療圏の現状

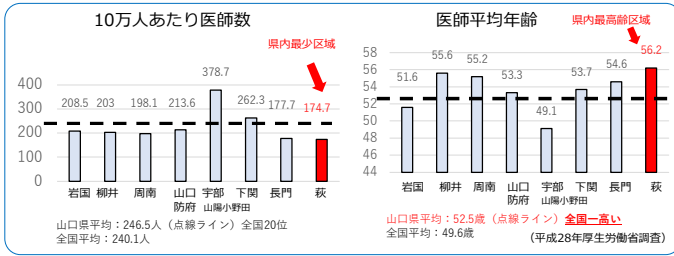
## ① 現状のままでは医療従事者が不足

### ◎ 医師の高齢化と不足が最も深刻な医療圏

萩医療圏は・・・県内で、医師の平均年齢が最も高く、医師が最も少ない区域

萩医療圏の医師の平均年齢は、山口県(全国一の高い平均年齢)の中でも、最も高い区域となっており、萩医療圏は全国的にも医師の平均年齢が非常に高い区域と言えます。

また、萩医療圏の人口あたりの医師数は山口県内で最も少なく、医師少数区域に指定されています。



### ◎ 若い医師の確保が困難な現状!

萩医療圏の救急医療や重症の患者へ手術などを行う病院(急性期病院)は、小・中規模で、複数の病院に専門的な医療が分散している状況です。

人口減少が進んでいる萩医療圏では、1病院あたりの症例数や治療実績が減少しており、新たに医師を確保することが困難な状況となっています。

- ▶ 1病院あたりの症例数や治療実績が少ない
- ▶ 1病院、1診療科目あたりの医師数が少ないため、若い医師を指導・研修できる体制にない

今の萩医療圏の病院は若い医師にとって、医療技術の習得や経験を得る場として魅力的な環境ではなくなっている。

若い医師が来ない ⇒ ますます医師不足に!



## ② 現状のままでは医療提供体制の維持が困難

萩医療圏の人口は、今後も減少することが推計され、人口減少に伴い患者数の減少も予測されます。さらに、専門の医師や診療などを求め圏域外への患者流出も診療科目により一定程度あります。これら患者減少による診療収入の減少が病院経営上の収支の悪化を招くことが予測されます。

加えて、救急医療では、医師の高齢化や不足などを背景に、当直回数が増えるなど医師の負担が増大し、現行の救急医療体制の維持が困難な状況に陥っています。



救急医療  
(1次・2次医療体制)

継続維持困難



# 2. 地域の医療を守っていくために

## ① 医師等を確保

近年、若い医師は、スキルアップ(技術習得)できることや、指導体制が充実していることなどが、研修先や勤務先の病院を選ぶポイントとなっています。

また、地域の関連病院へ医師を派遣する大学病院としても、医局に属する医師が減少してきている状況であり、限りある医師をより良い条件の病院、地域の核となる病院に優先して派遣することになります。

### ◎ 医師を確保するために萩医療圏に必要な病院

- 研修の場として症例数や治療実績があり、指導体制が確保できる病院
- 地域の核となり、地域医療を担う病院



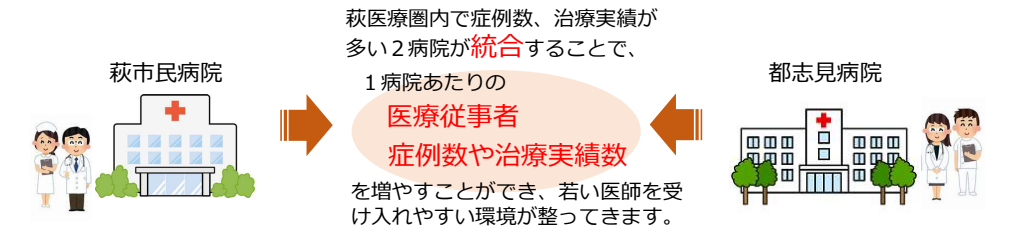
萩医療圏の核となる拠点病院  
中核病院の形成が必要



### ◎ 萩医療圏の現状においては統合が有効な手段

医療従事者が不足している萩医療圏において、既存の単一の病院のみで症例数を増やし、医療従事者の指導体制を整えた中核病院を形成することは困難

萩医療圏の中で、中核病院を形成するための手段として、既存の病院同士の中核病院を形成することは有効的



### ▶ 統合によるメリット

- 医療従事者の集約により、チーム医療の充実が図れるなど、医療の質の向上が期待できる。
- 医療従事者の集約により、若い医療従事者の指導体制が強化される。
- 高額な医療機器が効率的に活用でき、経費削減ができる。

### ▶ チーム医療とは

医師、看護師、薬剤師、検査技師などの専門職種がチームを組んで、それぞれの専門分野での経験や知識、技術を集約して、患者さんに最も適した治療を提供するというものです。

